

水道システムのリスク・課題及び安全度について

第一回 将来の首都東京にふさわしい水道施設の再構築を考える会

【現状】

水源確保

- 保有水源630万m³ /日のうち82万m³/日が課題を抱える水源
- 利根川・荒川水系の計画利水安全度は他地域よりも低い
- 近年の少雨傾向により水源の供給能力が既に約2割低下
- 地下水は、地盤沈下や水質の問題があるため、安定水源としての位置づけは困難

施設整備

- 大規模施設の一斉更新時期が間もなく到来
- 水道事業運営による環境負荷
- 膨大な水道施設の耐震化が必要

需要予測

- 現行の水道需要予測期間は10年程度
- 大規模施設の一斉更新に際し、水源や施設の整備・供用期間は数十年～100年以上にわたるため、長期的な需要の見通しが必要

【将来想定されるリスク・課題】

気候変動

経済動向、人口動態、ライフスタイル等の変化

環境負荷軽減要請の高まり

安定給水や水質の向上に対する都民の関心の高まり

事故・災害の発生

東京水道が抱える現状の課題と将来のリスクについて議論

3月11日に東北地方太平洋沖地震(M9)の発生

第二回 将来の首都東京にふさわしい水道施設の再構築を考える会

東日本大震災を踏まえた新たな視点

震災の特徴

- ・国内最大規模M9の地震が発生
- ・津波や液状化等の発生
- ・放射性物質の飛散に伴う水源水質の悪化
- ・電力供給不足による断・減水



新たな視点

- ・大規模な自然災害
- ・長期的・複合的な災害

第一回考える会の意見

- ・様々なリスクを考慮し、施設の質と安全度を向上
- ・リスク等に対し、短期・中期・長期の対応 等

国内外の水道施設の調査結果

- ・国内外の水道施設の現状等の調査結果

「新たな視点」や「第一回考える会の意見」等を踏まえた水道システムに関するリスク・課題の再整理

水道システム全体の安全度の検討

新たな視点を加えた幅広い議論を展開し、水源確保・施設整備・水道需要の観点から、「水道システム全体の安全度」を検討